

日本一の図書館

様々な意味で日本一の図書館は全国にあると思いますが、蔵書・施設等の面で日本一の国会図書館について書きます。

学生時代や調査研究で訪れた方もいらっしゃるかと思います。

場所は、国会議事堂の横、議員会館や首相官邸、政党本部が集まった場所です。私は、東京メトロ千代田線国会議事堂前駅で下車します。

駅のホームから地上へ出て驚くのは、警官の多さ警備のすごさです。

議会中、国政で大きな事件が生じた場合の警備の多さは半端ではありません。一般人の何倍もの警官が警備を行っています。

今回も、何があるのか推測しかできませんが、道路封鎖の準備までしていました。(ニュースでよく見る景色の中にあります。)



国会図書館のミッションの一つに、「**納本制度**」があります。

国民から出版物(ペーパーだけではなく、DVDやCDなどのデジタルデータや週刊誌やマンガを含む)を「納本」してもらい、**国民の文化遺産**として永く後世に伝える役割を担っているのです。

論文等を納本した方もいらっしゃることでしょう。恥ずかしながら自分の氏名で検索すると、かつて納本した論文が出てきますし保管されています。

現在では、**100年後の人も利用できる**ように、蔵書自体の劣化を防ぐために、多くがデジタル化されています。

図書館の利用法を書きます。

現在の国会図書館は、一般の図書館と利用のしかたの「感覚」が異なります。普通、図書館といえば本そのものが置いてあり、本を取ってきて読む感覚です。しかし、国会図書館は異なります。入館したら利用カードを端末にセットしてログインし、必要な資料を検索したり閲覧請求をします。請求した資料が届いたかどうかは端末で確認します。届いていればしかるべきカウンターへ出向き受け取ります。館外への持ち出しはできないので、机の上で読んだり、複写を請求します。(右の写真が昨日複写してきたものです。)



さて、私事です、今年度7回利用しました。自分が求める資料は明治時代のものがほとんどなので、フィルムになっているか、デジタルデータになっていて、ペーパー自体はほとんどありません。以前、古い本を借りたときは、別室で、係員のもとで閲覧しました。また、デジタルデータのうち、自宅パソコンで閲覧できるものがあります。それらは、自宅からコピーサービスを請求することができます。請求後、コピーが郵送され、コンビニ等で料金を払う仕組みです。

さて、次年度も何度かお世話になると思います。

皆さんも東京へ行ったとき、国政中心地の雰囲気を感じるとともに、教養として図書館を利用してみてはどうでしょうか。